



2024年度 上期決算説明会

東京証券取引所プライム（証券コード：7294）

代表取締役社長 平中 勉

目次

2024年度

- I. 上期決算サマリー
- II. 上期業績
- III. 通期業績予想
- IV. 株主還元
- V. 業績挽回の方向性
- VI. トピックス

I .2024年度 上期決算サマリー



2024年度上期決算サマリー

2024年度上期実績

- ・増収減益。為替換算影響による増収あるも、日本・中国・タイの生産台数減及び米国での品質費用の発生等で**営業利益は前期比約74.3%の減益**
- ・適切な計画に基づく資金調達で財務状況は健全な状態を維持

2024年度見通し

- ・為替換算影響による増収あるも、**主要顧客の大幅な生産台数減少等により減収減益**
- ・一部の外国通貨の下落に伴う為替差損の影響により経常利益も悪化
- ・YSP2026で掲げた構造改革施策の前倒し実施により当期純損失となる見込み

株主還元

- ・2024年度**中間配当は15円（決定）、年間31円（予定）**
2023年度配当実績**30円(前期比+1円)**

II.2024年度 上期業績

【上期】2024年度上期連結決算概要（前年同期比）

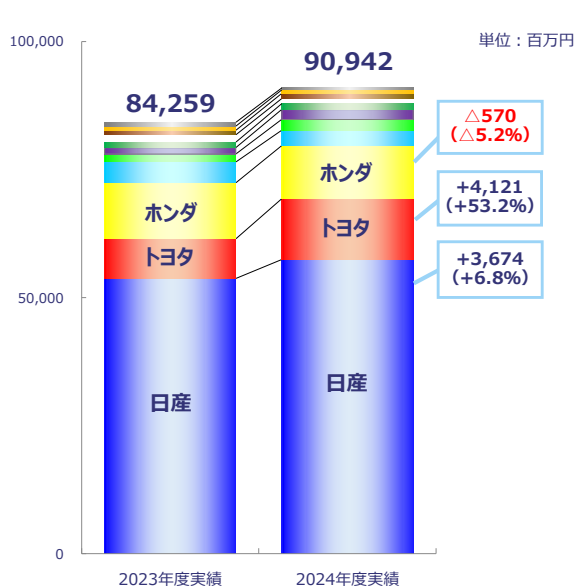
単位：百万円	2023年度 上期	2024年度 上期	前期比
売上高	84,259	90,942	+7.9%
営業利益	470	120	△74.3%
経常利益	754	△1,958	--
当期純利益 ※ 1	58	△2,588	--

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

	2023年度 上期 A	2024年度 上期 B	増減額 B-A	増減率
一株当たり当期純利益	2円42銭	△106円25銭	△108円67銭	--
連結取り込みレート	134円98銭 / \$	152円36銭 / \$	+17円38銭 / \$	+12.9%

- ◆ 売上高 日本・アジアの生産台数が減少となったが、円安に伴う換算影響で増収
- ◆ 営業利益 米国における品質費用の発生などにより減益
- ◆ 経常利益 為替影響により減益
- ◆ 当期純利益 経常利益の減少などにより減益

【上期】連結得意先別売上高（23年上期実績 対 24年上期実績）



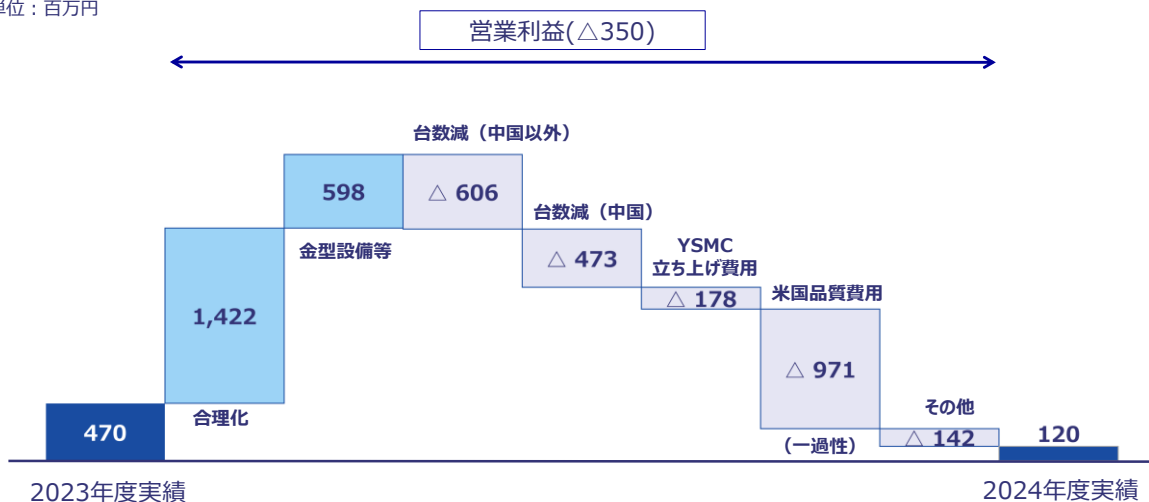
得意先	2023年度 上期	(%)	2024年度 上期	(%)
日産 Gr ※	53,799	63.8%	57,473	63.2%
トヨタ Gr	7,741	9.2%	11,862	13.0%
ホンダ Gr	10,911	12.9%	10,341	11.4%
いすゞ Gr	4,068	4.8%	3,043	3.3%
マツダ	1,540	1.8%	2,093	2.3%
VW	1,246	1.5%	1,947	2.1%
Mercedes Benz	1,060	1.3%	1,131	1.2%
クボタ	1,429	1.7%	995	1.1%
SUBARU	880	1.0%	976	1.1%
スズキ	843	1.0%	714	0.8%
その他	742	1.0%	367	0.5%
合計	84,259	100.00%	90,942	100.00%

※ ルノー・三菱向け売上含む

- ◆ 半数以上の得意先で2023年比増収
- ◆ トヨタ向けが大きく伸長

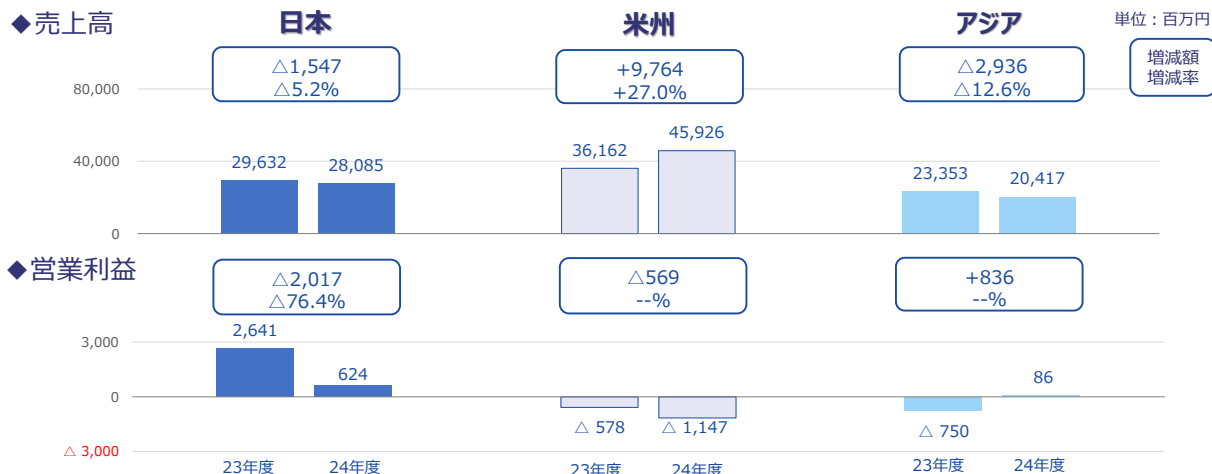
【上期】連結営業利益の増減要因分析（23年上期実績 対 24年上期実績）

単位：百万円



YSMC立ち上げ費用は合理化にて吸収するも、台数減影響等により減益

【上期】地域別売上高・営業利益 連結調整前 (23年上期実績 対 24年上期実績)



- ◆ 日本 生産台数減及びYSMCの立ち上げ費用等により減収・減益
- ◆ 米州 トヨタ向け売上増あるも、品質費用を含めた米国悪化等により増収・減益
- ◆ アジア 生産台数減影響あるも、減価償却費減を含む合理化等で減収・増益

財務状況 2024年9月期

(単位：百万円)	2024年3月末 A	2024年9月末 B	前期比(B-A)	
自己資本	66,070	65,432	△638	△1.0%
自己資本比率	46.4%	44.1%	--	--
有利子負債 <small>DEレシオ</small>	0.51 33,389	0.57 37,584	4,195	12.6%
NET有利子負債 <small>NET DEレシオ</small>	0.17 11,102	0.24 15,595	4,493	40.5%
総資産	142,257	148,364	6,107	4.3%
(単位：百万円)	2023年9月期 累計 A	2024年9月期 累計 B	前期比(B-A)	
営業キャッシュフロー	5,504	△561	△6,065	△110.2%
投資キャッシュフロー	△3,629	△6,031	△2,402	--
財務キャッシュフロー	△4,167	2,157	6,324	--

適切な資金調達計画でDEレシオは健全な状態を維持

(ご参考) 連結貸借対照表の概要 2024年9月期

単位：百万円

	2024年3月末 A	2024年9月末 B	増減 B-A
流動資産	75,373	79,525	4,152
固定資産	66,884	68,839	1,955
資産合計	142,257	148,364	6,107
流動負債	49,815	51,695	1,880
固定負債	16,949	21,041	4,092
負債合計	66,764	72,736	5,972
株主資本	58,394	55,590	△2,804
その他の包括利益累計額	7,676	9,841	2,165
非支配株主持分他	9,421	10,195	774
純資産合計	75,493	75,628	135
負債・純資産合計	142,257	148,364	6,107

現預金	△299
受取手形及び売掛金	3,117
棚卸資産	1,031
その他の流動資産	366
有形固定資産	2,908
投資その他の資産	△937
支払手形及び買掛金	△115
電子記録債務	△739
短期借入金	66
1年内返済予定の 長期借入金	△389
その他	2,645
長期借入金	2,019
その他	2,036
当期純利益	△2,588
配当支払	△412
その他有価証券評価 差額金	△794
為替換算調整勘定	3,100

Ⅲ.2024年度 通期業績予想

【通期】2024年度連結業績予想の概要

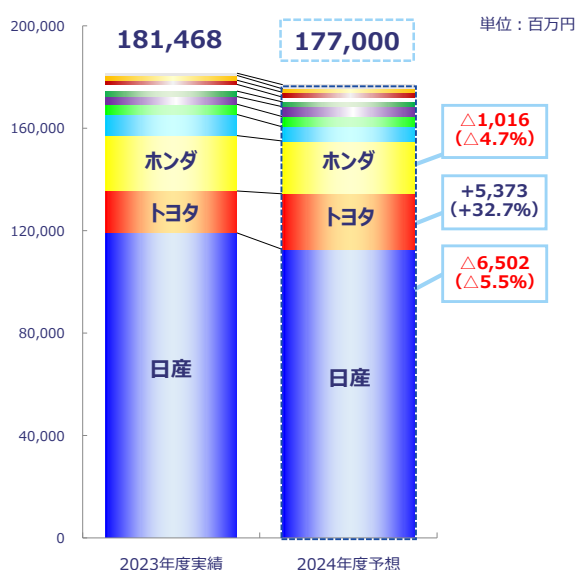
単位：百万円	2023年度 実績 A	2024年度 予想 B	増減額 B-A	2024年度 予想 C ※2	増減額 B-C
売上高	181,468	177,000	(△2.5%)△4,468	180,000	(△1.7%)△3,000
営業利益	4,459	△1,200	△5,659	4,500	△5,700
経常利益	4,517	△3,800	△8,317	2,750	△6,550
当期純利益 ※1	△3,926	△17,000	△13,074	1,050	△18,050

※1 親会社株主に帰属する当期純利益 ※2 2024年8月9日時点予想値

	2023年度実績 A	2024年度予想 B	増減額 B-A	増減率
一株当たり当期純利益	△162円07銭	△696円79銭	△534円72銭	---
連結取り込みレート	140円66銭 / \$	151円68銭 / \$	11円2銭 / \$	7.8%

- ◆ 売上高 円安による為替影響があるが、主要顧客の大幅台数減による減収
- ◆ 営業利益 エネルギー価格・人件費上昇や品質費用の発生による減益
- ◆ 経常利益 一部の外国通貨の下落に伴う、為替差損影響による減益
- ◆ 当期純利益 固定資産減損の計上による減益

【通期】連結得意先別売上高（23年実績 対 24年予想）

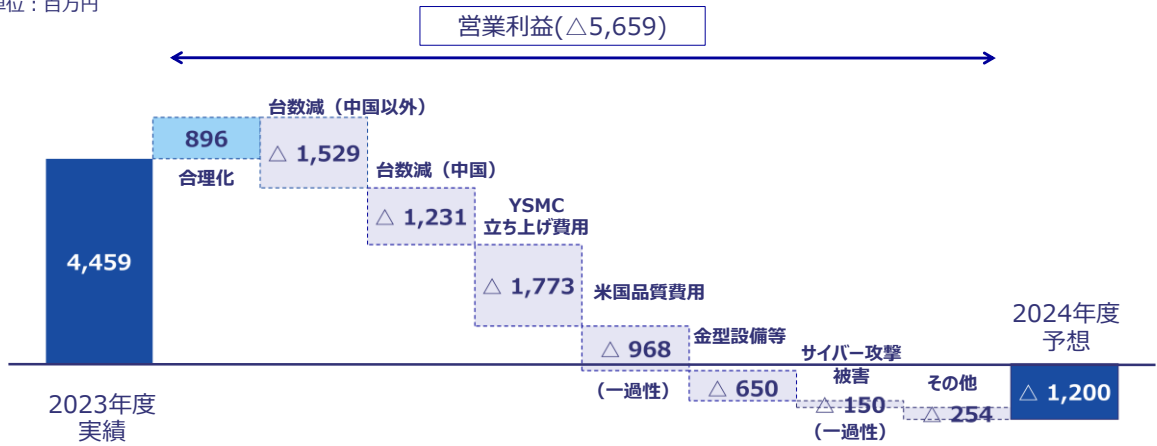


※ ルノー・三菱向け売上含む

トヨタ向けが大きく伸長

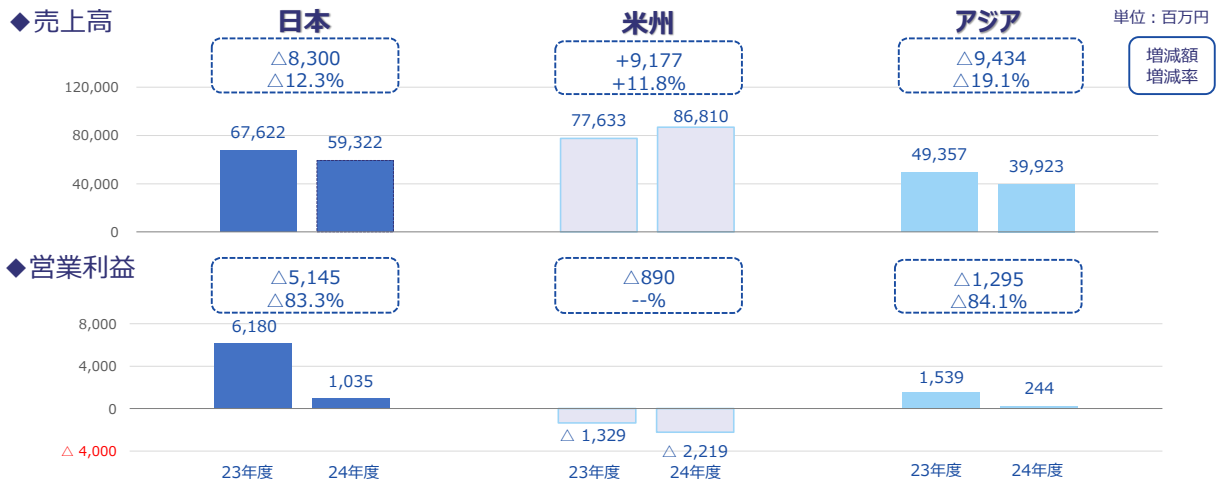
【通期】連結営業利益の増減要因分析 (23年実績 対 24年予想)

単位：百万円



日本・米国・中国・タイ等における生産台数の大幅な落ち込みと一過性費用等により減益

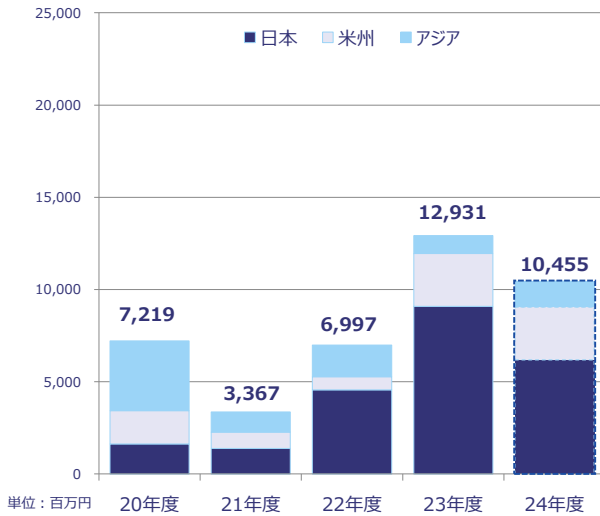
【通期】地域別売上高・営業利益 連結調整前 (23年実績 対 24年予想)



- ◆ 日本 金型設備売上減及びYSMCの立ち上げ費用等により減収・減益
- ◆ 米州 トヨタ向け売上増あるも、品質費用を含めた米国悪化等により増収・減益
- ◆ アジア 合理化進むも生産台数減により減収・減益

設備投資と減価償却費

地域別設備投資

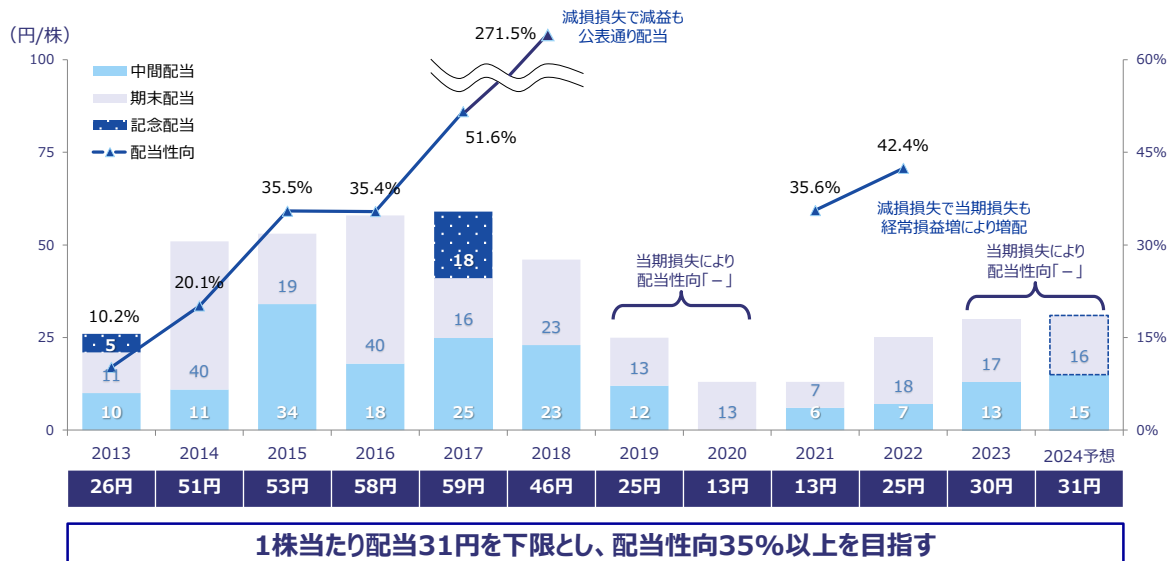


地域別減価償却費



IV.株主還元

株主還元



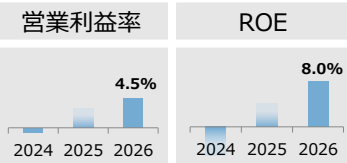
V.業績挽回の方向性



業績挽回の方向性

	業績悪化要因	社内要因 環境要因	実施済み対策
	米州	<ul style="list-style-type: none"> ・米国品質費用（上期：一過性） ・値上費用の回収遅れ ・新車立ち上げ費用の増加 ・主要顧客の米国生産減少（下期） ・トヨタ米国の一時的な生産停止（下期） ・サイバー攻撃による合理化停滞（下期） 	
日本	<ul style="list-style-type: none"> ・YSMC立ち上げ費用の増加 ・主要顧客の減産（下期） ・サイバー攻撃被害(下期：一過性) ・サイバー攻撃による合理化停滞（下期） 		<ul style="list-style-type: none"> ・YSMC移管プロジェクト活動の強化 ・システム復旧済 ・合理化アイテムを積上げ済
アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・中国市場での日系OEMの販売苦戦 ・タイ市場での主要顧客の生産半減 		<ul style="list-style-type: none"> ・稼働日調整、人員のスリム化（中国） ・設備売却、設備リース・リース・リサイクル徹底(中国) ・固定資産の減損による減価償却費縮減（中国、タイ他）

YSP2026の目標達成に向けた事業戦略の加速



OEMのBEV戦略見直しや主要顧客の構造改革影響など不透明な環境にあっても、事業戦略の軸は変えず、中計方策を前倒しで実施する

電動車に要求される、「軽量化」「高剛性化」の製品開発を更に強化する

事業基盤強化のため、トヨタ・ホンダから「選ばれる会社」を目指し、拡販に取り組む

VI.トピックス

新中期経営計画「YSP2026」の全体概要

業績目標

売上高 2,100億円

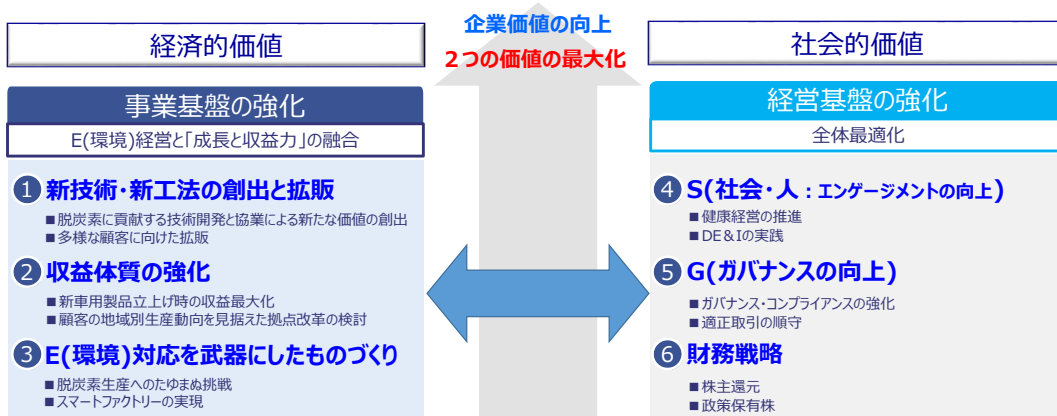
営業利益率 4.5%

ROE 8.0%

経営方針

社会の一員としての責務を果たし、成長に向けた攻めの施策で電動化時代を支える存在となり、全てのステークホルダーから「**選ばれる会社**」になる

基本方針



上期トピックス

方針	方策	進捗トピックス	説明
事業基盤の強化	①新技術・新工法の創出と拡販	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量削減に貢献する、軽量化製品の量産適用拡大 ・開発期間短縮を狙い、最先端の性能予測解析技術を導入 ・日本製鉄との協業による、製品付加価値の向上 ・拡販に向けた盤石な供給体制の整備（YSMCモデル工場の実現） 	○ ○ ○
	②収益体質の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点収益のモニタリング強化により、拠点負荷バランスの最適化検討を実施 固定資産の減損兆候ありと認識し、構造改革施策の前倒し図った 	
	③E(環境)対応を武器にしたものづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・YSMC新工場：100%グリーン電力で操業開始 ・CO2排出量削減：FY24目標▲26%に対し、▲22%達成 	○
経営基盤の強化	④S(社会・人:エンゲージメントの向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康経営優良法人に、大規模法人部門として4年連続で認定 	
	⑤G(ガバナンスの向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年 統合報告書の発行 ・ヨロズ75年史の発刊 	○ ○
	⑥財務戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュフローの最適化や資金繰りの検討を実施 	

上期トピックス：①新技術・新工法の創出と拡販

CO2排出量削減に貢献する、軽量化製品の量産適用拡大

超ハイテン材による軽量化の状況

NEXT STEP

量産採用

980MPa材 適用製品

※厚板/薄板の超ハイテン材
※海外生産車両で適用

先行
開発中

更なる軽量化開発加速

※1180MPa材 適用製品開発の“チャレンジ”
※軽量化技術の“コラボ”
(980MPa材/独自構造の融合)

2024年量産開始 2024年量産開始 2025年春季量産予定



日産 パトロール



トヨタ タコマ



欧州OEM

厚板
3.2mm

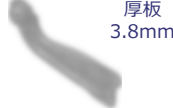


サスペンションアーム



薄板
1.0~1.6mm

シートフレーム



サスペンションアーム

厚板
3.8mm

チャレンジ

1180MPa材適用開発
鉄の限界にチャレンジ



コラボレーション

軽量化技術の
組合せ相乗効果

980MPa材の新製品を国内・海外で量産開始
軽量化新製品の適用拡大に向け、更なる開発目標を掲げ推進

YOR/ZU

Copyright © YOROZU Corporation

25

上期トピックス：①新技術・新工法の創出と拡販

日本製鉄との協業による、製品付加価値の向上

先進シース技術の融合

YOR/ZU

NIPPON STEEL

サスペンション
部品開発力
+
生産技術力

新たな
価値

世界
トップレベルの
鉄鋼材料
+
利用技術



高付加価値次世代
サスペンションアーム

アルミニウム製品と
同一機能の鉄製品開発

同等

同等

¥

大幅低減

CO₂

40%減

※LCAベースで計算

高付加価値次世代サスペンションアームの開発完了
OEMへ採用提案活動を開始

YOR/ZU

Copyright © YOROZU Corporation

26

上期トピックス：①新技術・新工法の創出と拡販

拡販に向けた盤石な供給体制の整備（YSMC モデル工場の実現）

YSMC 操業開始(24年1月)

YSMCトヨタGr売上計画 目標達成見込み



受注好調により、現有能力高負荷見込み

生産力強化でトヨタGr・ホンダから**選ばれる工場**に

グローバルの得意先別売上高

スバルEV向けヨロズ栃木体制も整備



YOR/ZU

Copyright © YOROZU Corporation

27

上期トピックス：③E(環境)対応を武器にしたものづくり

拡販に向けた盤石な供給体制の整備（YSMC 100%グリーン電力化完了）

Scope1,2 CN達成

Scope1

塗装設備の熱源をガスから電気に切り替え



Scope2

工場の屋根、駐車場に太陽光パネルを設置



Scope2 + 地域との共生

蓄電設備の設置
(災害対応)

EV充電設備の設置
(地域住民と共用)



YOR/ZU

Copyright © YOROZU Corporation

28

上期トピックス：⑤G(ガバナンスの向上)

ヨロズ75年史 発行のお知らせ

日本語版：https://www.yorozu-corp.co.jp/wp-content/themes/YOROZU%201.0.3/images/about/history_all.pdf
英語版：https://www.yorozu-corp.co.jp/wp-content/themes/YOROZU%201.0.3/images/en/about/history_all.pdf



統合報告書 発行のお知らせ

日本語版：<https://www.yorozu-corp.co.jp/investors/material/integrated/>
英語版：<https://www.yorozu-corp.co.jp/en/investors/material/integrated/>



当社の歴史、取組みをご確認いただくと幸いです

～全てのステークホルダーから「選ばれる会社」へ～

免責事項と著作権

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみで全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控え下さいますようお願い致します。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願い致します。

●お問合せ

責任者：(株)ヨロズ 取締役専務執行役員
担当：(株)ヨロズ 経理部 主担

平野 紀夫
劉 雪輝

T E L 045-543-6802

YOROZU